

完封の封皮

標記の言葉は郵趣の上では何と表現しているのか判明しないので仮にこの表現にしておく事とする。

先年、ある収集家の御遺族により頼まれて収集品の処分をする事になった。全てが未使用で記念切手、通常切手が主にシートであった。幸いシート類は全て業者に買い取ってもらう事ができたが、数回御宅へ伺った時こんなものがあるのですが価値がないと思うので捨てましょうかと標記の封皮を20枚見せられた。これは私が買い取りますと言ってその中野数点を今回表示する事となったが、これは一体どうして残ったのであろうか。おそらく故人が完封で買ったからではと思うが、年賀賞品のトラの小型シートが100枚も当たるような事があるだろうか謎である。

戦後20年代に発行された小型シート類は100枚完封まま残っているのもあった。(80銭の多宝塔やUPU75周年記念の小型シート)でもこれらも今となっては貴重な資料ではないかと思っている。

秋吉 誠二郎

